

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【社会科】

1. 対 象 5年生

本学級は、自分たちの経験や日常生活と結びつけながら社会科の学習に臨んでいる児童が多い。また、昨年度に総合的な学習の時間で SDGs について学習をしてきており、どの児童も食や環境への意識が高い。本単元のテーマである「食料生産」においても、日々自分たちが口にしていて食事と、これまでに行ってきた「米づくりのさかんな地域」「水産業のさかんな地域」の学習とも関連させながら学習を進めていくことができると予想される。本単元では、資料から必要な情報を読み取るだけでなくそこから考えを広げたり、既習の事項と絡めながら考えを発展させたりしていけるようにしたい。さらに、グループでの対話や知識構成型ジグソー法を取り入れることにより、友達の考えをもとに自分の考えを再構築し、よりよい考えが生み出されることを期待したい。

2. 単元名 「これからの食料生産」（全6時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	- 我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解する。 - 食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解する。
思考力、判断力、表現力等	- 生産物の種類や生産量の変化、輸入品量の変遷などの資料をもとに、これからの食料生産について考え表現する。 - 資料や他者との関わりの中で、これからの日本の理想の食料自給について考えを再構築し表現する。
学びに向かう力、人間性等	- 国内の生産者の思いや工夫、諸外国との関わりなどを含め、これからの日本の食料自給率について自分なりに考えている。 - 他者との関わりの中で、地域の生産者や食に感謝の念をもち、一人の消費者として自分にできることを考え実生活に生かそうとしている。

4. 本時の目標（3・4／6）

「生産者」「消費者」「販売者」の視点から日本の理想の食料自給率を考えるを通して、安心・安全に買い物をしたい消費者の思いや、環境面にも配慮した生産者の工夫、様々なニーズに応えるための販売者の配慮など、食料生産に関わる人々の願いや努力について考えることができる。

5. 授業展開【本時・単元】

解決したい課題や問い

日本の理想の食料自給率は？ ～生産者・消費者・販売者の立場で考えよう～

考えるための材料

《生産者》 ・国内産と外国産の値段の比較 ・農業の人口の変遷グラフ ・産地直送 ・循環型農業（持続可能な農業）	《消費者》 ・安い外国産を選ぶ人と、質のよい国内産や旬のものを選ぶ人の比較 ・地産地消 ・トレーサビリティ（生産者が分かるシステム） ・世界の食の安全ランキング	《販売者》 ・生産から販売まで全て管理している会社の例 ・フードマイレージ ・価格高騰の記事 ・国内産の需要グラフ
想定される活動		
・生産人口が減ってしまい、一度にたくさん作れないため、外国産にも頼らなければ、国民みんなの食料はまかなえない。 ・生産者は、自給率を上げようと努力している。	・質がよく安全という理由で国内産を選ぶ人がいるから、国内産はやっぱり必要だ。 ・なるべく安く手に入れたい人や、豊富な種類を楽しみたい人にとっては、外国産もないと困る。	・国内産を、より安心して買ってもらうために工夫されている。 ・フードマイレージを考えると、外国産よりも国内のなるべく近くのものを買う方がいい。 ・国内産は価格が急に高騰することもあるので、外国産のものもあると、いざというとき安心。

・産地直送を利用する人が増えれば、自給率が上がりそう。 ・循環型農業で、環境にも人にもやさしい農業を広めれば、自給率アップにつながる。 理想の自給率：60%	・外国産のものでも安心して買うことができる。 ・地産地消は旬のものをおいしく食べられるし、農家を応援することにもつながる。この取組で自給率も上がる。 理想の自給率：40%	・質のよい国内産を求める人のためにも、国内産の食材は確保しておきたい。 理想の自給率：80%
--	---	---

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

前時（第3時）…エキスパート資料を読み取る。

（説明・確認 10 分→個人 15 分→エキスパートグループ 15 分）

本時（第4時）…読み取ったことをもとに、知識構成型ジグソー法を用いて統合する。

（説明・確認 5 分→班 15 分→クロストーク 10 分→班で再構築 10 分→振り返り 5 分）

- ・消費者が安心して買い物ができるように、生産者も販売者も安全性を大事にしながら色々な工夫をしていることが分かった。より安心できるのは国内産。
- ・安く大量に買いたい人や洋食を好む人にとっては外国産も必要。外国のものも安全性が高まってきている。
- ・地産地消を大事にして、なるべく近くのものを買う方が、日本の農家を守れるし、環境にもよい。

理想の自給率：（ ）%

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

日本の食料生産だけでは日本人の食料すべてをまかなうことはできないけれど、より安全で質のよい食料を提供しようと日本の農家はたくさんの工夫や努力をしている。外国産の食料にも頼りながら、これから環境のことも考えて、なるべく国内の食料生産を増やしていけたらいいと思う。

理想の自給率：（ ）%